

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24510362

研究課題名(和文) アメリカのグローバル化と環太平洋地域の女性運動

研究課題名(英文) Globalization in the Pacific and Pan-Pacific Women's Movements

研究代表者

安武 留美 (Yasutake, Rumi)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：10351751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦間期のハワイに発足し、ポリネシア系及びアジア系女性に対して内包的姿勢を示した汎太平洋婦人協会(PPWA)を、環太平洋地域の歴史的な脈に位置づけ、米国からアジアへの女性運動の拡大とこの地域におけるアメリカ的システムのグローバル化との関わりを分析した。19世紀初めのアメリカ人女性宣教師のハワイ到来によって顕著化したこの地域での女性たちの異文化交流とネットワークの拡大を歴史的に追いながら、それに伴うハワイ先住民、アングロサクソン系、アジア系社会のジェンダー規範の変容を明らかにし、その変容が当地域における近代化及び人種/民族ナショナリズムの高揚とどう関わってきたのかについて考察した。

研究成果の概要(英文)：Contextualizing the inception of the Pan-Pacific Women's Association at Honolulu, Hawaii in 1930, which at the time was unique in its inclusive attitudes toward Polynesian and Asian women, this research project analyzed the relationship between women's movements and the globalization of American systems in the Pacific from the early nineteenth century to the 1930s. After the arrival of American missionaries in Hawaii in the early nineteenth century, there emerged inter-cultural and international women's exchange and networks, which were accompanied by transformation of the gender norms of Native Hawaiian, Anglo-Saxon, and Asian communities in the Pacific. This project examined this transformation in relationship to the modernization, global expansion of American/Western values and systems, as well as the rise of racial and ethnic nationalism in the Pacific.

研究分野：女性史、アメリカ史、環太平洋地域研究

 キーワード：環太平洋 グローバル化 トランスナショナリズム 国際女性ネットワーク 先住民 移民定住者 文
 明化の使命 近代化

1. 研究開始当初の背景

それまで、アメリカ発の女性運動がどのように日本およびアジア地域へと拡大、変容してきたかの研究に従事していた。第一次世界大戦後、二度と戦争を繰り返さないための国際的連携の必要性が認識され、それまで環太平洋地域での協力が主であった欧米の白人女性たちの女性組織も、アジア、アフリカ、南アメリカにそのネットワークを拡大し始めた。しかし、通常、その本部組織は欧米に存在し、欧米の白人女性とその幹部役員の地位を独占していた。

そのような中で、アングロサクソン系白人女性の主導で1930年に発足した汎太平洋婦人協会(PPWA)は、当初ハワイをホノルルに根拠地とし、アジア地域でトランスナショナルな活動に従事した女性組織・運動の中でも、そのポリネシア系及びアジア系女性たちへの内包的姿勢が顕著であった。その理由はなぜなのか。汎太平洋婦人協会設立の歴史的背景をハワイに探り、その設立と活動の意義を明らかにしたいと思ったのが、この研究を始めのきっかけであった。

2. 研究の目的

19世紀初頭にアメリカ人宣教師が初めて到来した時、ハワイ島はカメハメハ一世によって統一されたばかりの王国であった。「太平洋の交差点(Crossroads in the Pacific)」に位置するハワイ王国は、グローバル化し始めた資本主義経済圏にいち早く組み込まれ、基幹産業となった砂糖産業を支えるために多様な移民労働者を受け入れて近代化を果たした。同時にハワイ先住民社会は変容を余儀なくされ、19世紀末には、アメリカ人宣教師の子孫たちの主導のもと、王制の転覆、共和国化、そしてアメリカ合衆国による併合の道をたどる。

本研究の目的は、多様な人種および文化を内包して環太平洋諸国の縮図となるハワイ社会のジェンダーおよび人種関係の変容に注目し、(1)ハワイ発、環太平洋女性ネットワーク形成に大きな役割を果たした白人女性(主にハワイおよび米国に居住する白人女性定住者)の多様な政治的意図を解明するとともに、(2)そのネットワークに参加したハワイの、また環太平洋諸国の非白人女性たち(主にハワイ先住民、日本人、中国人、朝鮮人)の多様な背景、目的、活動をトランスナショナルな手法で分析することであった。さらには、19世紀から20世紀初頭に形成されたこの環太平洋女性ネットワークとアメリカ発女性運動の拡大が、この地域におけるアメリカ的システムのグローバル化、台頭する民族および地域ナショナリズムとどのように関わってきたのかを考察することであった。

3. 研究の方法

Ian Tyrell によって提唱されたローカル、ナショナル、トランスナショナルという3つのレベルでの研究を同時進行する手法を用いた。(1)ローカルなレベルでは、特にホノルルにおける女性たちの異文化交流とネットワーク形成、またそれに伴うジェンダー規範と人種間関係の変容に注目し、(2)ナショナルなレベルでは、ハワイ発の女性ネットワークに連携する環太平洋諸国の女性組織の活動や国家関係を調査し、(3)トランスナショナルなレベルでは、それら多様な国々の女性たちを集めて戦間期に4回開催された汎太平洋婦人会議の動向及び汎太平洋婦人協会と他の主要な国際組織との関係に目を向けた。

そのために、戦間期に開催された汎太平洋婦人会議の議事録や関連資料から、会議にかかわった多様な国籍・人種の女性たちの中から特にキーパーソンとなる人々を洗い出し、それらの女性たちの調査を進めることによって、研究対象とした国際女性ネットワーク及び運動の概要把握を行った。

4. 研究成果

(1) 概要

19世紀初めのアメリカで高揚した白人プロテスタント教会の福音主義的エネルギーは、「heathen(異教・野蛮)」な女性たちの「救済・向上」さらには「文明化」に使命感を持つ女性宣教師を世界各地に送り出した。そして、1820年、ニューイングランド地域からハワイに到来したアメリカ人女性宣教師たちによって開始された環太平洋地域での女性たちの異文化交流と女性ネットワークの形成は、この地域でのジェンダー規範を大きく変容させることになった。19世紀終わりから20世紀初めまでには、宣教師運動に代わって、禁酒運動、革新主義運動、婦人参政権運動、平和運動などが、「文明化の使命」を引き継いだ中産階級のプロテスタント白人女性たちの活動の中心となる。宗教的言説を全面に出さなくなったこれらの女性組織は、既に女性宣教師の影響下でアメリカ的価値観を受容していた環太平洋地域の非白人女性を巻き込んで、その運動を拡大させていく。しかし、プロテスタント的ジェンダー規範を文明化の尺度とするこれらのアメリカ発の女性運動の拡大には、当時の環太平洋諸国の人々に近代化・西洋化の必要性を認識させた西高東低の文化的に不平等な世界観が不可欠であった。その不平等な世界観に基づく運動の拡大は、同じ民族内に西洋的・近代的文化の受容の度合いによる序列化(エリート・非エリート)を促進し、ハワイにおける王制転覆、共和国化そしてアメリカによる併合に寄与するものであった。

また、文化的不平等な世界観に基づく女性運動に伴う女性ネットワークの拡大は、広く環太平洋地域社会の文化的西洋化・アメリカ化にも寄与するが、それは資本主義また資本主義的植民地主義の台頭と同時進行するもので、民族ナショナリズムの高揚を招くと同時に、急速な産業化と社会格差の拡大が、民族内また地域内での不和、分裂さらには闘争を生んだ。

しかし、アメリカでは、19世紀末からそのような自由放任の資本主義経済システムの生み出す社会悪の改善に取り組む革新主義運動が起こり、大学教育を受けた女性の第一世代となったプロテスタント白人女性エリートがその運動—特に母性保護、女性および児童労働者の保護、義務教育拡充のための運動—の中心的役割を担うようになっていった。これらの女性たちは、環太平洋地域へ飛び火したアメリカ的システムが引きおこす社会問題にも目を向けた。その結果、文化的不平等の上に成り立つ環太平洋女性ネットワーク上で連携する白人女性エリートと非白人女性エリートは、その目的を共有するようになり、その関係はより平等かつ強固なものへと変化した。しかし、そのような白人エリート女性と非白人エリート女性の接近は、非白人女性エリートと非白人女性非エリートとの距離や格差を拡大させることでもあった。そのために、国際連盟やILOとも連携して戦間期に形成された環太平洋地域のエリート女性たちのトランスナショナルな協力関係は、それぞれの国家・民族内での不和、分裂さらには闘争、またそれに起因する国家間の対立、戦争を阻止する有効な手段となりえなかった。

国内以外で、国際的な視点での戦間期の女性運動及びそのネットワークの研究が進みつつあるが、環太平洋地域的女性運動に注目する研究はまだ数少ない。本課題研究は、ハワイのローカルな歴史的な文脈に注目し、汎太平洋婦人協会とその活動から浮かび上がるハワイ発トランスナショナルな環太平洋女性ネットワークの姿を明らかにし、そのネットワーク形成に関わった多様な女性たちのそれぞれの政治的意図とその歴史的意味を考察した点で、これまでにはない新しい知見をもたらすことができたと考える。

(2) 国内外での位置づけ

Ian Tyrell, Noenoe K. Sylva, Allison Sneider, Fiona Paisley など主に英語による先行研究上に位置する研究であるため、英語での研究成果の発表を優先した。成果の一部は、アメリカの著名な歴史学会である Organization of American Historians 及び American Historical Association において、またヨーロッパの研究者の主導する女性史研究学会である International Federation of Research in Women's History で、口頭発表の機会を得た。また、オハイオ州立大学で開催された Transnational

Feminisms Summer Institute のセミナーにおいては、研究書原稿の3章をたたき台してもらい、参加者から有益なコメントや批判を得ることができた。さらには、2015年の甲南大学紀要掲載論文に加筆修正を加えた論文—“Re-franchising Women of Hawaii, 1912-1920: Politics of Gender, Sovereignty, Race, and Rank at the Crossroads of the Pacific”—が、Brill社から出版予定の Judy Tzu-Chun Wu と Catherine Ceniza Choy 両教授の編集する論文集—*Gendering the Transpacific World: Diaspora, Empire, and Race*—の一編として採用され、現在、その論文集は第三者による審査の途中にある。

(3) 今後の課題と展望

それぞれに複雑な文化・歴史・社会的背景を持つ女性たちの集合する女性ネットワークおよび運動を研究対象としたため、その概要の把握は困難で、目を通すべき資料も膨大なものとなった。研究成果の集大成としたい英文の研究書は、まだ最終章の原稿完成間近という段階であるが、今年の夏を目処に完成させ、2017年の出版を目指したい。また、日本語版の出版機会も得たいと考えている。

本課題研究においては、ハワイのローカルな歴史的背景、社会事情および社会構造の解明には、現地での調査活動で収集した多くのアーカイブ資料の解読に基づく分析を行った。ナショナルおよびトランスナショナルなレベルでの研究には、主に日本で入手可能な一次二次資料、またネット上でも公開され始めたアーカイブ資料および一次二次資料を用いた。

それらの資料に基づいて、環太平洋地域における戦間期の国際女性ネットワークとその活動の概要を描き出したが、その過程で、さらなる詳細を明らかにする価値のある課題が数多く存在すること発見した。例えば、ハワイ最後の女王となったりリッオカラニと親密な関係にあったと思われる東海岸のアメリカ女性活動家、ハワイの白人女性の主導した運動の協力者となったアジア系二世女性たちの活動、また白人女性の主導するトランスナショナルなネットワークに参加した中国人・朝鮮人・日本人女性たちの相互関係、汎太平洋婦人協会と他の主要な国際女性組織との関係などである。今後は、焦点を絞って計画を立て、これらの課題の詳細を一つ一つ明らかにし、それぞれ論文としてまとめていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

Rumi Yasutake, “Hawaiian Nationalism, American Patriotism, and Re-Franchising

Women in Post-Annexation Hawaii,” 『甲南大学紀要、文学編』、査読無し、165 巻、2015、pp.119-126
https://konan-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1580&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1

安武留美、「『禁酒』を巡る近代化の一側面：アメリカ白人女性大衆のトランスナショナルな社会運動と社会秩序の再編成」、『関西西洋史論集』、査読なし、38 巻、2015、pp.23-34
<http://kgur.kwansei.ac.jp/dspace/bitstream/10236/13084/1/38-4.pdf>

〔学会発表〕(計4件)

Rumi Yasutake, “Women’s Civilizing Mission and Globalization in the Pacific,” 130th Annual Meeting of American Historical Association, 2016. 1.9, Atlanta (USA)

Rumi Yasutake, “Mothering Citizens of ‘Democratic’ Hawaii: Women’s Politics from a Transnational Perspective,” 2015. 8. 28, Jinan (China)

Rumi Yasutake, “Trans-racial and Trans-national Elite Women’s Networks and Public Motherhood at Turn-of-the-Twentieth Century Honolulu, Hawaii,” Transnational Feminisms Summer Institute, 2014.7.9, Ohio State University (USA)

Rumi Yasutake, “Women’s Civilizing Mission at the Crossroads of the Pacific: Democracy, Motherhood, and Peace, 1820-1939,” 2013 Organization of American Historians Annual Meeting, 2014.4.12, San Francisco (USA)

〔図書〕(計1件)

安武留美 他、彩流社、『北米の小さな博物館3—「知」の世界遺産』、326 (132-139)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安武 留美 (YASUTAKE, Rumi)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：10351751

(2) 研究協力者

Judy Tzu-Chun Wu
Professor, University of California, Irvine

Catherine Ceniza Choy
Professor, University of California, Berkley

Karen Leong
Associate Professor, Arizona State University

Sarah Ross Pripas
University of California, Los Angeles